

★ある集いその足あと

ダンスリー

ルネサンス合奏団

岡本 一郎

△ダンスリールネサンス合奏団リーダー



県民小劇場でのリハーサル風景

ダンスリールネサンス合奏団の歴史は、団員が一つのまとまりになつて音を小さくすることに努力専念した日々の連続でした。時代様式の違いとすることを別にすれば、バロックとルネサンス音楽の違いというのは音量と技巧の占める度合が違うということでしょう。

簡単と言えば、バロックに較べてルネサンス音楽の演奏では音量が明らかに小さくなり、音楽はより優しく、自然な形に帰つていきました。音楽の中の技巧的な要素は段々取り去られて行き、自然に発生した音楽の単純な美しさを大切に守るのがルネサンス音楽の特色です。

現在ヨーロッパの中世ルネサンス音楽の復興は、Early music ブームと呼ばれ大変盛んです。現代はルネサンスのルネサンスなどともいわれる位です。日本にいると想像も出来ないのですが、ダンスリーのような合奏団が沢山あり

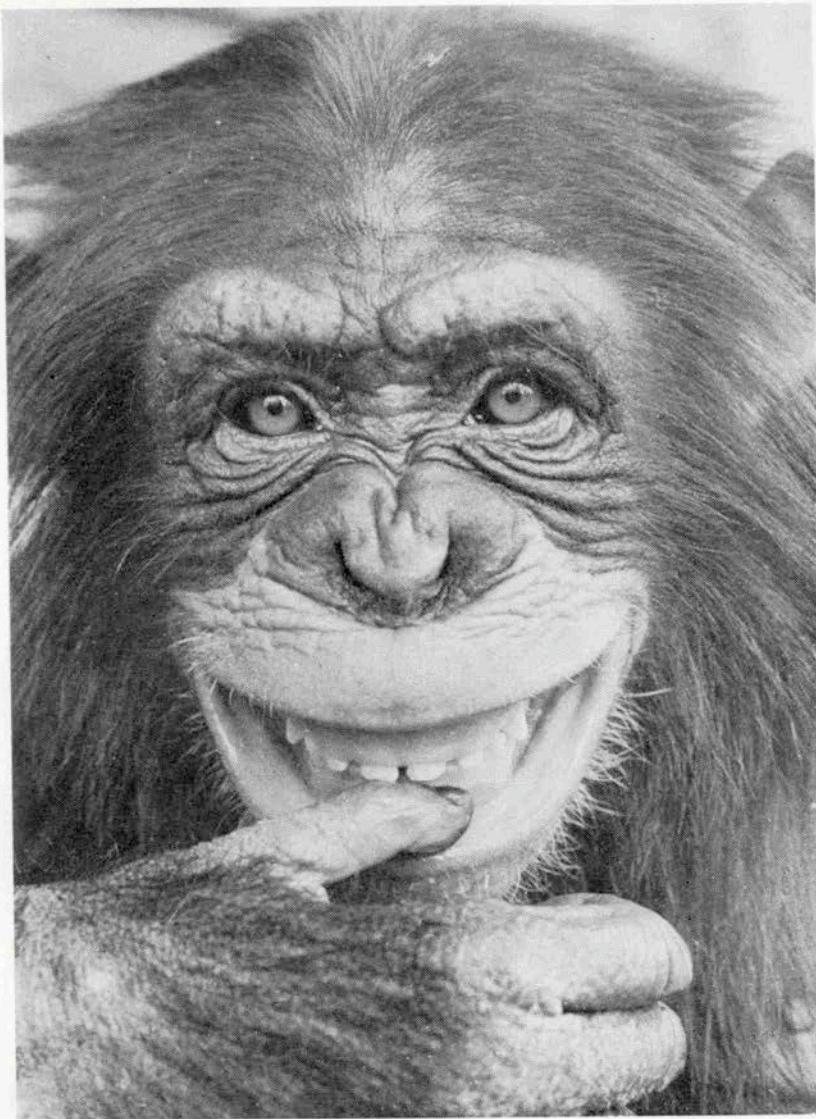
す。現在の日本ではバロックとルネサンスの音楽はともすれば混同されがちです。このバロック音楽から一線をはつきり割していくこうというのが練習と演奏会に忙しく明け暮れたこの四年間の我々の運動の第一の目的でした。

第二の目的はルネサンス音楽をオリジナル楽器で演奏するということです。楽器を揃える問題は楽譜の発掘と並んで私達にとって一番厄介なことでした。現在ダンスリーの使用している楽器は、管楽器はリコーダー、クラムホルン、ルネサンス・フルート、コルナミューゼ、弦楽器としてバイオラ・ダ・ガンバ、レベック（ヴァイオリンの先祖）、シターリリュート等ですが、全て当時使われていた楽器の忠実なコピーです。打楽器のたまご二台は我々の手で中世のたいこをモデルに復元したものを使っています。又この時代にはカウンターテナーと言う女の声域を歌う男性歌手が沢山いて、その素晴らしい美しい音色で一つの分野を確立していました。

現在ヨーロッパでの中世ルネサンス音楽の復興は、Early music ブームと呼ばれ大変盛んです。現代はルネサンスのルネサンスなどともいわれる位です。日本にいると想像も出来ないのですが、ダンスリーのような合奏団が沢山あり

客様も沢山来ます。大きく、複雑に、人工的になりすぎた現代の演奏会に対する一つの救いといいますか、和らぎといいますか、何かアンチ・テーゼのようなものを提起しそれが深い静かな反響を起こしているようです。レコード屋（ヨーロッパ各都市の）でもバロック音楽ではない Early music の売場が年々に大きくなつて来ています。そうした時流のお蔭で私達も毎年ヨーロッパに演奏旅行出来るようになりました。一昨年には、続き去年は二十八回もの演奏会を開いたのですが、今年はベルギー、やハンガリーからも演奏会の申込みが来ています。

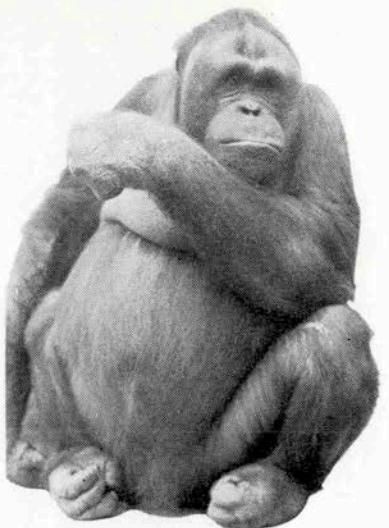
ヨーロッパで演奏して何より美しいのは私どものやつている Early music を演奏するのに全く理想的な演奏会場がいたる所に沢山あることです。それらはロマネスクやゴシックの教会であり、お城の大広間であり、ギヤラリーであり、とにかく自然のままの建物がルネサンス音楽の演奏のためにあるような状態です。こうした会場の雰囲気は演奏者に快い芸術的刺戟を与えてくれて演奏を助けてくれます。こうしたことは日本では経験出来ないのが残念です。



ないしょ話シリーズ(40)

動物園飼育日記——動物とウンコとボクと

動物園飼育日記——118
——亀井一成



「あいつ新米だな！」のぞきこむオランウータン

動物園の“あの人、どうも臭いんですよ。”

ボクはよく頭や背に動物たちのウンコをつけては家に帰り、ときには床屋や茶房にまで出かけすまし顔だったのである。

それは、新人のボクと何ひとつ芸事のできない二頭のゾウとが、六ヶ月間、昼夜住みこんでの調教をくり返していた頃のこと。恐がる巨体をタルにのせ、ラングドンを渡らせ、逆立ち。それにラップも吹かせる特訓の毎日。

失敗しては逃げまどうゾウと、手カギをふりかざすボク。緊張の連続で辺りをウンコで汚すゾウ。ボクの体はそのとばかりで何時も臭いの洗礼をうけていたのである。

〔ウンコの洗礼のこと〕

いやそればかりではなかった。不用意に近づき興奮して襲いかかってきたライオンがねとばす汚物をまともにうけたこと。それに尾の腺液を壁になすりつけ、そこへひっかけるトラの小水を顔にかけられたこと。

あの温厚なラクダにしては思いもよらない習癖がある。突然咬みつくかと思えば半消化でことのほか臭い胃の内容物を吐きだしひっかけてくること。

それにオスは小水をうしろにとばし、とくに発情期には尾でわざと排尿をうけ、それを辺りにふりまく無礼千万な行為。

この後ろ向きの水鉄砲はサイにも見られ、ひとときでも、サイの前で立ち止つてはいるが危い。近寄つてきたオスがくるりと尻を向けたとたんに圧力のある小水が吹きとんでくること。

また、不意をつかれるのが、ナマケグマの“ダ液の鉄砲”7種あるクマのうち、インドにいる英語名スローベア蟻塚をツメで引きこわし、土や菓材の汚れをその口先で吹きとばし、中のサナギを食べる習性。それがオリの中の生活にも見られ、何でも一度は吹きつけ、汚れをぬぐつてから食べるという吹きつけ食事法。それを新人キーの顔めがけ、突然吹きかけてくるのだ。

さらにもた、知恵者チンパンジーの下手投げ“ウンコの手留弾”新人や、気にいらないお方には、さつとリンゴやバナナの皮を投げつける。もしこのとき彼の投じた品物に逃げもせず何の反応も示さなかつたら、彼等の興味は育たないはずである。だが試行錯誤、投げる品物によつて人間どもはうろたえ逃げまどうことに気づいた彼等は、ウンコの効力に武器として“採用”していること。

〔ウンコバクダンのこと〕

その上空からの汚物にもなやまされたのがサル舎と鳥舎。新人当時のボクは大きなムギワラ帽子をかかせなかつた。どう注意しても数多いウンコバクダンの雨に汚れぱなしの毎日だつた。だが、不思議なことに口うるさい先輩は、さすがにひとつ汚れもなく、何時見ても作業衣はきれいだつた。

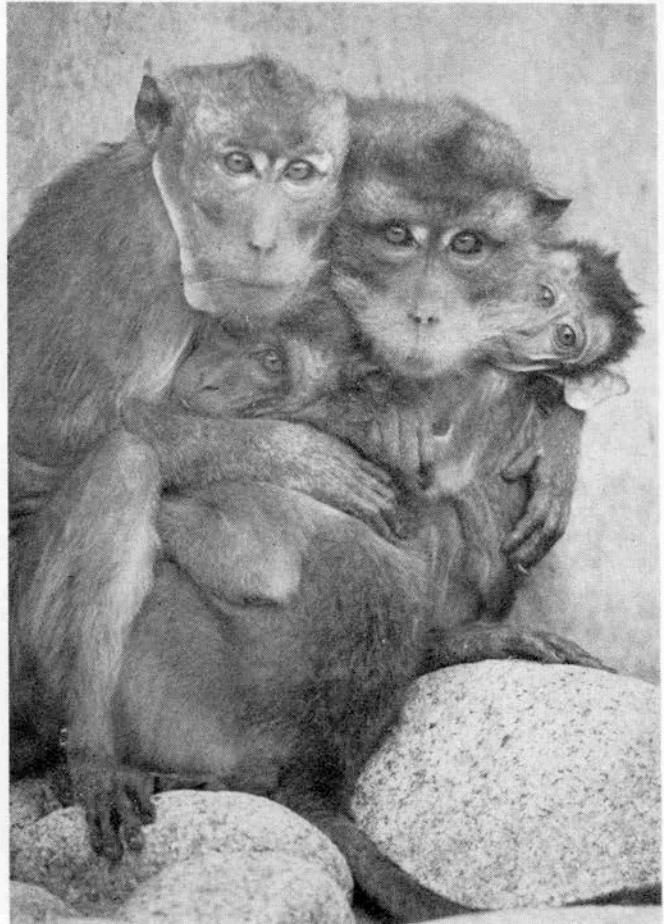
ボクはこんなに汚れてまで作業をしているのに！とうらやむ、そこには未熟さがあつたのである。

早く馴れるには動物の生活に入りこめ！ 少々汚れようが服装をかえるな！ こわがるな！ 何度も対決しろ！ オレは若い頃、ライオンの背にまたがり、ヒョウを猫のように扱つたと、ボクはよく先輩からこのような“しご

たボクは、やはり未熟だったのである。

我々に命をたくす動物たちは哀れである。餌をくれる係員に一見馴れていようが、つねに気心をうかがい、おどおどしている。僅かな緊張にウンコを出すサル。鳥もまた係員のけはいにばたつき、ウンコを落しあじめる。ウーンなるほど！ つまり

今、25年の飼育



不安そうに抱きあうカニクイザル

き"をうけていた。

ウーン、なにくそ、若いボクは、なおもがむしやら、

クマのオリに、サルのオリにも入りこみ手なづける作業の毎日を続けたが、そのかいあつて、クマもライオンもボスザルもが、先輩がいようが、ボクには一目おくまでにはなつてくれた。つまり気力では負けることはなかつた。だがしかし、作業服の汚れは相変わらず先輩と較べものにならない。なおも考えぬいたあけく、よし、ひとつ初心に返つて諸先輩のあとをじつくりつきまとつてやれ！

大声でオレの来たことを意識しろ！ と愛称を呼びながら近づくところまでは正解だったが、ふと気づいたのが、いきなり動物舎に入りこまないことだった。一体何をこそそそモンキーホールの外周や隣りの鳥舎をのぞきこみ、早く作業にかかれればいいのに！ とはがゆく見え

体験からも明解にいえることは、作業順位の問題だったのだ。

食肉獣から草食獣へ行くな。神経質な動物に対してもは作業の予告を与えること。具体的には動物舎の外周や附近の獣舎に立寄り、先づボクの姿をさらけ出し、一番作業として隣室での作業を行う。するとどうだらう。怖いボクを見たとたん、精神作用をもろにうける猿類たちはウンコをあちこちに落しはじめた。鳥もまた同様。いきなり入らず外周や一番ヒトに馴れた鳥舎から作業にかかると、とたんに隣室の鳥はウンコをとばしはじめた。そして、大方の量を落し終つたあと、平然とサル舎や鳥舎に入つて作業をはじめたボクは、それ以来ウンコの洗礼をあまり受けなくなつたのである。

こどもの日の

楽しいプレゼントに…

—たくましい子を祝う武者人形は
おもちゃのカメヤで—



おもちゃの

カメヤ

三宮方面でのお買物は…
さんちか店 ファミリー タウン ☎ 391-4045
三宮店 センタープラザ ☎ 331-4969
元町方面でのお買物は…
元町店 元町通3丁目山側 ☎ 331-0090
ハンプワ店 元町通1丁目不二家前 ☎ 391-0768
神戸駅方面でのお買物は…
サンこうべ店 神戸駅前地下街 ☎ 351-6002

でんわ・
321 321 331
—〇六三七一
六三四五四

三宮サムライ

やつぱりうまい
むさしのとんかつ



本店 大丸前・三宮神社東
TEL (331) 56772
(毎週水曜日休み)
さんちか味のれん街
TEL (331) 5233
(第3水曜日休み)

お
す
し
て
ん
ぶ
ら
し
ん
誦

営業時間
A.M.11.30～P.M.9.00

民間福祉事業の育成を



片岡 実さん

兵庫県庁のすぐ山側、浜地ビルの6階に「兵庫県心身障害児福祉協会」という小さな民間の社会福祉機関がある。この協会は大きくわけて愛護激励事業、療育指導事業、啓発事業を三つの柱として阪神間を中心にはじめ、障害児のための大変幅広い活動を展開している。

「愛護事業」というのは手足の不自由な子どもたちのレクリエイション活動、「療育事業」は在宅重症児の家庭訪問指導、電動タイプライター指導（言葉で十分に自分の意思を伝えることのできない子どもたちのコミュニケーションの一つの方法として電動タイプライターの打ち方を指導する）障害児の親子キャンプなど。「啓発事業」は社会福祉セミナーを開いて婦人や学生ボランティアを育てたり、映画会、講演会などで障害児に対する理解を深めたり、また、心身障害児の作品展示会などを定期的に催したりするもの。

またこの協会は兵庫県肢体不自由児父母の会連合会や阪神間の親の会の事務局として相互の連絡調整、情報の交換なども行っている。

てきたのが事務局長の片岡 実さん（31）。片岡さんは関西学院大学社会学部に在学中の頃から兵庫県肢体不自由児協会の活動に参加し、卒業後もしばらくケースワーカーとしてここで仕事をしていたが、そのうち意あつて昭和43年10月に自分の力で協会を設立した。設立にあつてたまたま毎日新聞の記事で紹介され、いろんな人から激励の手紙が寄せられ、寄付も少し集つた。みんながいろんなものを持ちよつて仕事をはじめたもののお金がなく、片岡さんも数年間は無給で働いた。事務員を無給で募集するということもやつてみた。

最初の頃は西宮労働会館に事務局をおいて西宮市を中心活動をしていたが、3年ほど前から神戸にも事務局を置き、活動の輪をひろげていった。

昭和46年から車イスで歩ける町づくりのために生活環境改善運動を始め、この協会の地道な努力が実を結び、行政を動かして市内の公共の建物には車イスで通れるようになり、歩道の段差をなくしたり、いろいろ具体的な改善への努力を重ねていった活動は高く評価されてよい。

片岡さん自身も脊髄性小児マヒで松葉杖の助けが必要だが、その行動は大変エネルギーで国際的である。四年前に二〇日間ヨーロッパ五カ国を訪ね、肢体不自由児の学校、訓練施設、授産施設などを見て回り、そのレポ



野外で元気に……療育キャンプより



トキリエイションは今も大切な活動のひとつ^く明石市民会館で>

アを旅し、ずい分多くの刺激を得たという。

手足の不自由な子どもたちに対する愛情と、一度決めたからならやり通すという片岡さんの粘りと実行力が、小さな協会をここまで育ててきたといつてよい。

現在は常勤の職員五名と非常勤の言語訓練士が二名で、スタッフはみな若い。若いからこそ次々と新しい事業に

難しい場合も多い。

とりくむ姿勢やエネルギーが生まれてくるのかもしれないが、この協会も公的機関からの補助金がほとんどない

ートを新聞に連載し、

民間の福祉機関である故に運営は楽ではない。年間二千万円の予算のほとんどを自主財源でまかなうため、昨年はバザーや辻久子さんのバイオリンコンサートを開いたりしたほか、女優の宮城まり子さんの制作した「ねむの木の詩」を県下各地で上映し、これが大変ヒットし、啓蒙活動としても大きな成功をおさめた。

集まつた資金をもとにして、昨年の八月から事務所内の一室に言語訓練室を設け、言語訓練士による言葉の練習の他、毎週土曜日には整形外科医らの協力を得て、機能訓練の機会の少ない子どもたちに訓練の場を提供している。今年の新しい仕事としてはもう少し言語訓練士を増やし、ちえおくれの子どもたちの言語指導をする他、兵庫県下を歩いて埋もれている子どもたちの指導をすること、さらに子どものスポーツに力を入れて、のびのびと子どもたちが楽しめるようなスポーツを考えしていくこと、などやりたいことは多くあるそうだ。

もともとこういう民間社会福祉事業はこのように行政では手のまわらないキメの細かい仕事を地道にやっていくこと、社会のニードを早く発見し、先駆的な仕事をやつしていくこと、などがその重要な役割でもある。しかしこういう民間福祉事業の役割の重要性は認められても、

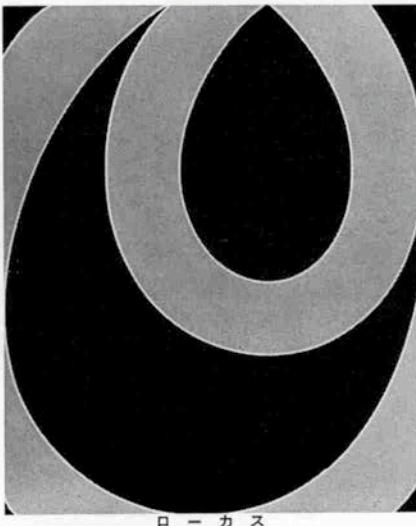
民間の力だけではなかなか思いきった事業をやることか
難しい場合も多い。
「いい仕事をしていくために、行政ももっと民間事業の
育成に力を入れてほしい」というのが片岡さんたちの願
いである。こういうボランタリーな活動がどんどん育
ち、町の中にひろがっていくことを期待したいし、その
ためには市民や行政のバックアップをお願いしたいもの
である。

★兵庫県心身障害児福祉協会へのお問合せは
神戸市生田区中山手通五—一五—一七浜地ビル6F
TEL(078) 382-1029四-五

■ ファッショニエッセイ

いつも“ガツツ石松”で ニューヨークを渡り歩く

藤尾 諭秀 ▼画家・在ニューヨーク▼



もともと神戸生まれの神戸育ち。関大法學部を二年で中退してプラットとアメリカ、メキシコへ旅立ち、もう一度アメリカにいたいと思い、改めてニューヨークに。学生ビザを取つて住みついたのが私の絵描き人生のスタートとなつた。

ブルックリンミュージアムアーツスクールに入学したことしたが、週に二日出席する日以外、東典男さんの工房で版画の手伝いをしていて、考え方、テクニカルなことなど学校よりそこで学ぶことが多く、いつの間にか足が学校から遠のいて……。奨学金をもらつていたのに登校しなくなつたもんだから追い出されてしまい、プラトーグラフィックセンターへ転校。そこでも仕事をすることが多くついつい欠席がちだつたが、本当の事情を説明したら「授業料さえきつちり払つてくれたらしいよ」と了解。もう一生懸命アルバイトに精出しましたね。電気を止められたりするくらいのひどい貧乏生活だつたのにお金がどうしても必要だつた。いや、今もお金は持つてないが、当時はそんな生活のあけくれが続きしかし、希望と夢とに満ちていた生活だつたような気がする。

“オヨヨ”いつたいこの珍語はどんな意味や? と考え込んでしまつたくらい五年ぶりの日本は変わつていて。いや、「変わつたように見えた」と言つた方が正しいだろう。しかし二ヶ月半暮らしていたら、やつぱりアメリカ偏重のナニワ節的あのなつかしのニッポンであつた。

私は藤尾 諭秀。通称ミスター・フジ。(どうも向こう

の人は最後まで発音することができないらしく、大抵の日本人は第一字ぐらいでの名で呼ばれていることが多い。しかしフジはフジヤマに通ずるいい名前であると内心思つてはいるが……)。今はニューヨークに寝起きする身。絵を描くことを生業としている。

ところで、今、私が住んでいるのはニューヨーク市内ソーホー地区。ビレッジからソーホーへ時代が移つたといわれる例のソーホー。ある日突然、油絵を始めた私は、デフォルメした形を色で表現するという仕事をしています。篠原牛男、川島猛、小島伸明などの絵描きとも知りあい、東さんにも、もちろん可愛いがつてもらい、四年のビザも切れたが永住権を取得することが出来、一九七五年十一月十七日から二十七日まで東さんの持つアズマギヤラリーで個展を開催することも出来た。

もちろん個展の反響は真二つ。チラと会場をのぞいただけで入ろうともしない人もいれば、楽しんでくれる人もいる。こんなに真二つな反響をもつ作品は珍しいと変なホメ方をしてくれる人がいたが、あたる可能性があることはラッキーだと思つてます。むしろ、美術をやつ

てて、人間性を真剣に考えることが出来、流されず自分の生き方も考えられるということに関して感謝されてゐる。僕の絵は対象物を描いているのではなく、自分を描く、自分の考え方を描いているのだから……。

絵というものは、特にこれは私自身の主張だけども、人が好き、嫌いといおうがかまへん。こういうテクスチヤーがいるなん



アズマギャラリーでの個展会場で 中央がミスター・フジ。

一切はぶいて根元的な絵、色と形だけで思想を表現する

ものであると思つてゐる。

「理屈を前に

出さず明快さ

を訴えられる

点で、やっぱ

り君の作品は

神戸的やな：

：」と人に言

われたけど、

絵描きは、絵

を見せて「好

き」と言われ

たらそれでい

い「嫌い」と

言われてもそ

れでいいと思つてゐる。その意味でも、個展は成功だつたと思つてます。

もしあと一ヶ月でも余分に日本にいたら、きっともうニューヨークに帰りたくなくなるだろうけど、いま改めてニューヨークの魅力を感じます。丁度二ヶ月半という期間これが僕が日本にいる限界だろう。マリファナやヒップビーチのと、ごく限られた範囲の情報で誤ってニューヨーク人種をとらえている人のために、僕の知るニューヨーク人種を語ると、彼らは自分に対する自由とニューヨークに対する自由を持っている。お洒落にしても自分の好みを主とし、日本みたいな流行はないし、義理人情のない自由を持つてゐる。そのかわり、自分の生活をするために、のたうちまわるくらいの苦しさや悲しみも持つてゐる。ありとあらゆる種類のもの、一流のものから下等のものまで何でも手に入る街で、いかに自分を守つて生きて行くか？それには、いつも“ガツツ石松”しかないんです。

金持風の人も、おかもさんも、アートディレクターもとに角、あのビッグ都市に住んで生活して喜び、悲しみ唄い、泣いて、黒いのも白いのも黄色いのも、英語、スペイン語入り濃じつての不可思議な街だけど、BGMにソウルが似合ういい街だと思います。そして外観などの様子は「刑事コジャック」を見て下さい。あれはニューヨークの街が舞台になつてゐるから。

僕は、これから映画なども作りたいし、やりたいことはいっぱいあるけど、とりあえず、自由の女神の待つ街へ帰ります。そしてソーホーの住居兼アトリエで私自身が多いこと。TVでプロレスがゴールデンタイムに放

●K.F.S.郷土訪問ツアーへのお誘い。

私達は、神戸に住みながらも、意外な程、その周辺を知らないものです。そこで一度足許から見つめ直そうと「郷土訪問ツアー」を計画致しました。今回は東播地方を中心に訪ねてみたいと思います。播州織の西脇市訪問を軸として、なるべく楽しいコースになる様にしたいと思いますので一人でも多くの方の御参加をお願い致します。

- ・時 4月29日(木)午前8時半集合
- ・集合場所 神戸新聞会館前
- ・会費 K.F.S.会員 4,000円(不足分は、会で負担致します)
一般 5,000円
- ・コース(予定) 三田一東条湖(昼食)
一關竜灘一北条五百羅漢一西脇
- ・募集人員 28名(先着順)

●K.F.S.ゴルフコンペ!

K.F.S.親睦ゴルフが2月26日大神戸ゴルフクラブに於いて開かれました。参加者は6名と少なかったが、大変楽しい一日でした。キャリアの浅い人ばかりでスコアの公表は控えさせて頂きましたが、岩木氏が、さすがというところを見せ、中原会長は、毎朝のマラソンの成果をみせ最後のハーフ49と氣をはいたが4位に終わりました。

次回からはコンペとして2カ月に1回開催されますのでどんどん御参加下さい。



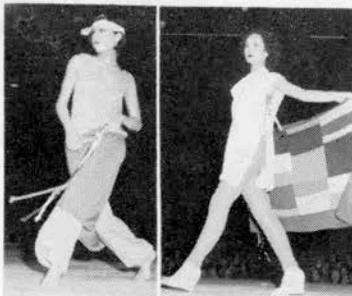
第1回K.F.S.ゴルフコンペ御案内

- ・日時 4月22日(木)午前8時集合
- ・場所 神戸明石G.C.
- ・会費 3,000円(優勝、2位、3位、B・B賞他)

☆賞品のスポンサー大歓迎!!

参加御希望の方は、Tel. (251) 3010
阿曾まで

●森さんグランプリ!



泰砂丘子門下生のファッショショウが、3月13日午後1時と3時に芦屋ルナホールで“ボディーランゲンウェッジ”で開かれ、K.F.S.の三期生森千尋さん(29才)が、グランプリを獲得。また発想感覚賞を市之木江充子さん(K.F.S.一期)が受けた。第2回目のニットファッショショウだが、テーマを決めないで作品をみて思想を感じてもらおうと、自由な感覚でショウ構成し、クリエーターとしての腕を競った。

写真左グランプリの森千尋さんの作品(左下)右は市之木江充子さんの作品。

★K.F.S.メンバーによるP.R.

室内を演出する

神戸装飾 株式会社

神戸市生田区中山手通2丁目64/4
三宮販売部 Phone (331) 0557

神戸もとまち

大 丸

Phone 神戸 (078) 331-8121

ミセスのための婦人服

Vert ヴェール

伸和スタイル株式会社
神戸市垂合区生田町3丁目17
Phone (241) 8691

ショコレートの

モロゾフ株式会社

神戸市東灘区御影中町6丁目11番19号
Phone (851) 1594

コウベセンスで創る婦人靴
株式会社

TUKASA ツカサ

神戸市長田区細田町5丁目2/28
神戸化学センター5F Phone (691) 7739

株式会社 阿曾理容店

神戸営業所 神戸市垂合区浜辺通5/2/1
神戸商工貿易センタービル11F
Phone (251) 3010

株式会社 理容アソ

大阪市北区小松原27 富国生命ビル1F
Phone (331) 2214

オートクチュール

マーガレット

藤本ハルミ
神戸市生田区三宮町1丁目29
Phone (391) 1134

オートクチュール

アトリエ・ヨシコ

中島嘉子
トアロード・クロスピル Phone (321) 2268

★神戸ファッション市民大学OBによるグループ
<神戸のファッション都市化をめざす>

K. F. S. news 7

事務局/神戸市生田区元町通2丁目37村田ビル
デザインルームナカハラ内 TEL 391-4768

●3月のマンスリーサロンに
若林輝雄さん
二割にかける
オリジナリティ。



小雨模様の3月10日(水)、県民会館402号室にサンローラン極東プロデューサーの若林輝雄氏と、前ミラノ神戸市派遣情報員藤井和夫氏を迎えて、マンスリーサロンが開講された。

藤井さんの「ミラノで感じたこと」若林さんの「イブ、サンローランのマーチャンダイジング」についての話は、現場で実際に動いてきた、今、動いている話だけに非常に興味深いものであった。

当日の若林輝雄氏の話は、「若林スタジオ」というのは、例えばいま星電社にあるオレンジハウス etc を日本に持つて来たり、新人デザ

イナーとのジョイント(主に三越やピーナッツで有名な丸紅との)、ファッションだけでなく室内装飾商品の開発などをやっているのです。

サンローランに関して言えば、極東プロデュースをしていまして現在14社ほどあるライセンスをもつ業者とパリのサンローランオフィスとの問題点やチェックなど、そして“サンローランのエッセンスをいかにして生かすか”というマーチャンダイジングをやっているわけです。

日本人というのは賢いが、豊かではないでしょう。唐傘文化といったらいいのか。でも、今、僕たちが頑張ったら、模倣の文化が孫子の代には真実になりますよね。そのためにも基本的イズムというものを伝えておきたいんですよ。

越路吹雪さん。彼女は70kgもある人なんだけど、シャープなラインに見えますでしょう。あれは立体裁断のテクニックですね。その衣服の生活の積み重ねから生まれた技術と、彼らのもつ二割にかけるオリジナリティ、これが一味違うんですよね。

二割にかけるオリジナリティというのは、彼らは自分のオリジナルを二割しか提供しないのです。

「これで今年はいこう」という商いに

なるものは、彼らの作品のはんの二割なのですよ。それにアンサーが応えて彼らの二割のオリジナリティが波状して行くわけです。

その「二割のオリジナリティをいち早く、今日会った瞬間に相手に伝えるか」これが私たちの仕事で、イメージメイキングファミリーを設定し、着物、食物、生きざま、生活のスタイルすべてがわかる訴え方で年間のワードローブを提供し、新鮮さを伝えているんですよ」最先端をいく話だけに時間が過ぎるのも早く感じられた。

●K. F. S マンスリーサロン

<一般聴講歓迎>

4月14日 <水> 県民会館902号室



午後6時30分より
「未定」

三浦 保氏 <神戸新聞コミュニケーションセンター>
「未定」

増田光吉氏
<甲南大学社会心理学教授>

5月12日 <水> 県民会館902号室



午後6時30分より
「未定」

華房良輔氏 <作家>

<一般に限り各聴講料¥1,000
です>

世界の福祉施設

歐米の心身障害者を訪ねて

橋本 明著 <カラー8ページ、本文320ページ、定価 1,000円>
<社団法人家庭養護促進協会事務局長> 送料 200円



主な内容

- 里親発見活動
- フォースター・グランドペアレント
- フアーストアベニュー・サーサンセント
- ボランティア・ビューロー
- 病院におけるボランティア活動
- レニア・スクール
- アメリカのグループホーム
- 社会福祉とPR活動
- 砂漠の中の老人の町
- ボーイズ・タウン
- パーキンス盲学校
- スポツツク博士の子供博物館
- アビリティーズ
- ロンドンのバーナードホーム
- 奇蹟の町・ルルドを訪ねて
- コベンハーゲンの老人の町
- ベーテル——西ドイツの障害者の町（ドイツ）
- ヘット・ドルブ——未来を拓くオランダのコロニー（オランダ）

各書店で好評発売中！

振替口座 神戸四五一九六

●福祉時代の幕開けです。あなたも一冊ぜひどうぞ！

お申込みは月刊「神戸っ子」編集部まで。神戸市生田区東町113の1 大神ビル7F TEL(331)2246

★神戸の集いから

直井潔「一縷の川」

出版記念会



直井さんご夫妻を囲む出版記念会

明石に住む作家の直井潔さんが、この程「一縷の川」を出版。二月二十一日午後二時より、湊川神社会館で出版記念会が開かれ約二〇〇名近く、先輩、友人が集まつた。直井さんは、志賀直哉門下として、不自由な身体にもかかわらず、明石で、地味ながら直撃的な作家生活を送る人。「一縷の川」は、文学青年だった直井さんが、日華事変に応召され、北支前戦で赤痢から傷痍軍人としての療養生活を余儀なくされ、志賀直哉師との出会いから一縷の望みを文学に託して、戦前戦後を悪戦苦闘しながら生きて

ゆく私小説。当日は、志賀一門を代表して作家の阿川弘之氏が出席。坂井知事、富田碎花、竹中都、陳舜臣、足立巻一、白川渥、小倉敬二、佐々木明石教育長、岡崎薰郎、眞野さやんらが、森恭子さんの司会により、心こもるスピーチを贈った。

「戦後編をぜひ書いてほしい」との陳氏の言葉のよう、に続編発行が待たれる本。明石市明石町三ノ二六ノ三直井潔

延若丈囲む神戸井筒会

二月十五日。上方歌舞伎を守る「神戸井筒会」が、神戸文化ホールで、延若と踊る」を企画。地元邦舞家と共に華麗な舞台をくりひろげたが、終演後、生田神社会館で、延若丈を囲む集いが持たれ約二〇〇名近い会員が集まつた。会長の宮崎辰雄市長夫妻を初め、大阪から、長谷川幸延、秋田実、沼津再、宮田一作、また地元の長島隆、荒尾親成、花柳芳一、川瀬喜代子さんら沢山のファンが一堂に会し、世話人の松井一郎文化ホール館長や、森実勉、福田義文さんらはご満悦。

延若丈も、十八番の「操



延若丈を囲んで神戸井筒会のみなさん



望月美佐展

「神戸時代」で

北野坂にある「神戸時代」で好評のぎらりーが今年は、女流書家望月美佐さんの個展を、二月十二日と三月五日迄開き、美佐さんを囲む集いが二月二十日に開かれた。

当夜は、朝日ファミリーニュース編集長の重森守さん、マンガのたかはしもうさん、上田照也さんのご母堂と夫人、久田徹也、松本尚時夫妻、らが集まつた。今年も東奔西走するなか、『竜』の文字を竜年にちなんで書き、油彩も加えて、新しい美佐さんの魅力をふりまいた。



延若さんを囲んで

三番操」や初演の「鏡獅子」の疲れもみせず元気一杯のファンサービス。次回は中座の上方歌舞伎の観劇が予定されている。目下新会員募集中。お問い合わせ

（生田神社会館

会員募集中。

十人のインディアン

アメリカ民謡
詞・高田三九三



八人



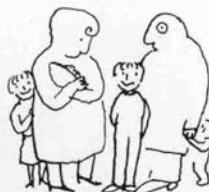
九人いるよ



十人のインディアンボーイズ



五人



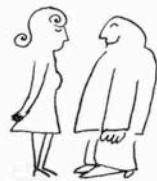
六人いるよ



七人



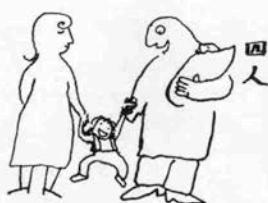
ひとり



ふたり



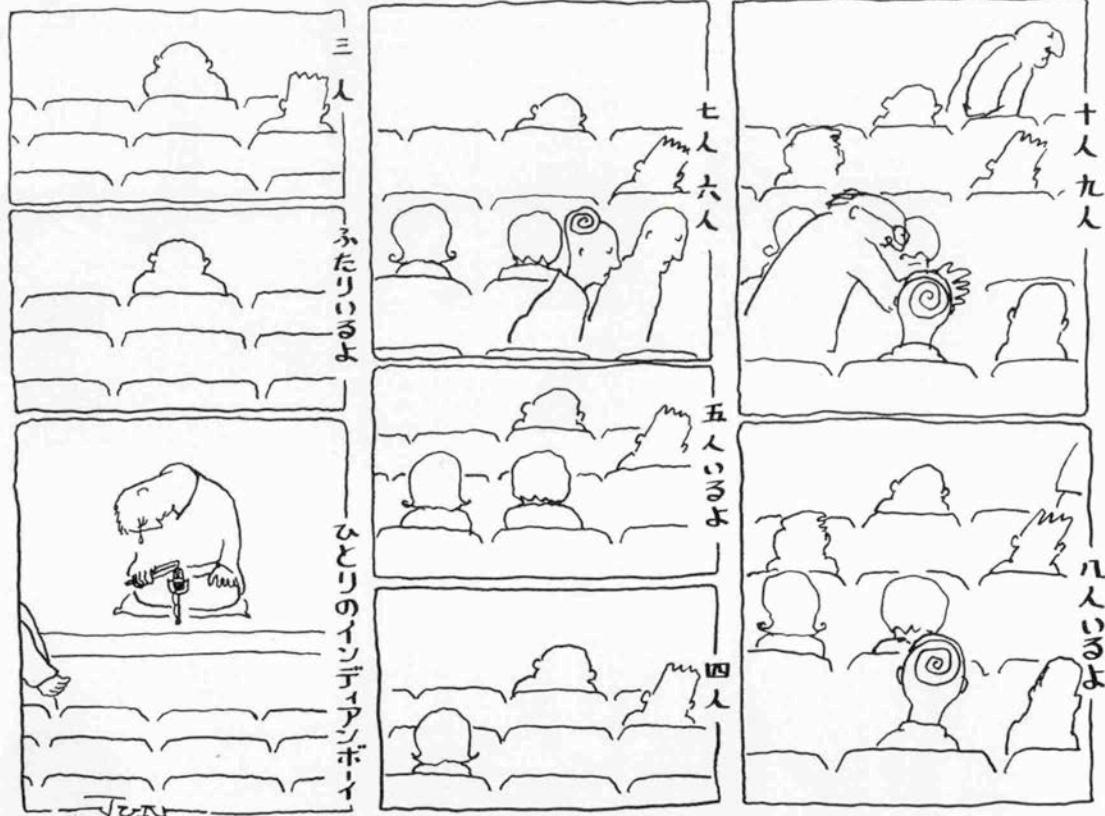
三人いるよ



四人

十人のインディアン

アメリカ民謡
詞・高田三九三





皇國の興廃

竹田 洋太郎

（在ニューヨーク）

え・たかはし もう



筆者

國を離れると、人間は愛國者になる。故郷神戸を離れると、私はより強く神戸っ子になる。当たり前のことだが、日本はもつとしつかりしてもらわねば困る。神戸はもつといい町になつてもらわねば困ると切歎扼腕し、その結果、歯がガタついたり、腕に神経痛がおきたりするのであります。

二月のさる日、ニューヨークの「見本市会館」ともいすべきコリシアムでナショナル・シュー・フェア、全国靴見本市が開かれた。世界各国の靴メーカーが、これららの流行に挑戦する靴の大見本市である。

その前「扇」といういきつけのスタンドで、神戸から来て自身でニューヨークに住んでいる青年M君にあつた。彼は当地にも現地会社と関係工場を持つ靴メーカーにいるが、同時に実家は長田のメーカーと聞いた。長田のケミカルシューズは、神戸地元産業の誇りであった、と過去形になる。それを語りつつ水割りを飲んでいると本当に神戸よ、長田よ、しつかりしてくれ、と二人で祈る気持になつたくらい。

コリシアムで開かれる多くの見本市は、当社の新製品はコレと誇るのが普通だが、シューフェアは、誇つて見せるのが半分、あとはカーテンで各小間を囲つてしまつて、通りすぎ的人には、新製品がことわりなしには見えない仕掛けになつていて。その中で、やはりカーテンに開まれた「コウベ・ファッショ・シュー・アソシエ

ーション」の小間を探すのはひまがかかつた。はいって見れば、商談はちよいちよいあるらしい。その点では、出展が成功か失敗かはなんともいえない。ただ、涙が出る思いがしたのは、出展品のサミシサだ。女性用ブーツにいかにもケミカルらしい艶と色彩が出ていたもののほか、まあ、カーテンを開いて、人に見せるものはほとんどない。夜店の一角より貧弱ですな。

こうなつた理由を私は知らないわけではない。どんどん輸出しているメーカーは、その製品を他人に見せたくない。すぐ他人にマネされるからだ。そのため、見本市にもカーテンがはつてあるくらいだし、世界の輸入業者の中には、他社の製品のマネをさせて、値段をたて、安く輸入しようとかかっているのも多勢いる。

だが、そういうルートをお互いに探し合い、つぶし合はしているうちに、ケミカルシューズの本場は韓国、台湾、香港に移つたし、米国内でも、マイアミ市近くで、キューバの亡命者が始めたケミカルが大企業になりつつある。一方、皮靴の値段は、イタリアに加えて、スペイン、ユーロスラビア、ブラジル、さらには為替レートの関係からアルゼンチン製品と、実に安い。皮が安いのに、を好んでケミカルを——ということになるわけだ。

それなら神戸のケミカルシューズはオシマイか。神戸はファッショ・都市だというが、靴こそまずファッショ

ンの先端を行くものだし、そのための力、技術は少くとも私が神戸でお会いしたケミカルシューズ業界の人々はそれぞれに持つておられる。しかも、私の「うわの空」の想像では、皮は皮、ケミカルはケミカルで独自の性質や色彩の自由さを主張できるはずである。

たとえば、この見本市で、オリジナルを堂々主張して誇示している製品は、大きくわけて三つある。一つは、復古調（背広にチョッキが復活したように）の装飾性の強い男女の皮靴。次に、いちばん数が多いのが、ジーンズをはいたときにはく靴である。ブルーディーンのもつて

いる気安さ、運動性。これに合う靴のスタイルは、これこそ、ケミカルのチャレンジできる世界だし、それに対し世界中のメーカーがオリジナルな作品を競っている。

第三はスポーツシューズの分野だが、これも神戸には

カカトが前より低いアース・シューズ



次は値段の問題。昨年神戸からケミカルの方々がニューヨークにこられて驚いたのは、こちらの小売店のマージンが大きいことだった。これは靴に限らず、消費物資は牛乳、バターなどを除いて、すべてそうなので、こちらの勝負は、いかに高く売れるか、ということだ。

そのための市場調査、商品化、流通経路の決定、以上を基礎にした広告、宣伝、パブリシティ（さきの見本市への出展の方法なども含め）に米国の商売人は、ものすごい努力もし、楽しみもする。「注文があるから売る」ものは、かならずそのうちに売れなくなる。これはケミカルシューズだけではない。よく「知識集約産業」なんていうが、即席ラーメンを、処女地で売り出して、利益を生むまでに、どれだけ知識経験と努力が必要か。

米国のスーパーで、日本製品を探せばないことはないが、ブランドネームで売れているものはあるが。ようやく、一部で知られてきたのがキッコーマンの醤油だけ。それも米国製である。商品名で売れる日本製品は、自動車、カメラ、テレビ、ステレオ、腕時計（セイコー）だけ。あとは、終戦後の民間貿易再開のころの「バイヤーによる貿易」とほとんど変わらず、一方フランスやイタリアのファッショントリ品は女子高校生もそのブランドネームを知っている。こんなことは永続きしません。日本人が食つていけるかどうかの問題ですぞ。御免。

先覚者が多い。これらが、見本市のコウベの小間になかったとはいえない。だが、チャレンジしているという意気込みが、この小間の中に感じられない。チャレンジは他人のマネでなく、いかに奇想天外珍無類でもいい、これダメ！というのを出すことだ。そしてシーネズを愛好する若い人、あるいは若づくりの人（私のこと）は、奇想天外をも受け入れるのである。アメリカでの「アース・シューズ」という、カカトが前より低い、奇妙な靴の流行は、もう日本へも飛んでいっていると思うが、これもジーンズに似合うからはやるのだ。